



JAPAN HOUSE

SÃO PAULO

LONDON

LOS ANGELES

JAPAN HOUSE 実施報告書

—2025年3月—

JAPAN HOUSE

来館者数

JAPAN HOUSEの発展及び今後の展望

日本の多様な魅力や様々な政策・取組を発信する施設として2017年から2018年にかけて設置されたJAPAN HOUSEは、2023年には来館者数がほぼコロナ禍以前の水準に戻り、着実にその存在感を拡大してきています。開館時からの累計来館者数は、3拠点合計で730万人（2025年2月現在）を超えています。2017年に開館したサンパウロは、来館者が400万人を超え、現地でのランドマークとして着実に定着してきています。また、2018年に開館したロサンゼルスは、2025年中に来館者数100万人を達成することがほぼ確実であり、さらなる飛躍が期待されます。さらに、2018年に開館したロンドンは、来館者数が既に220万人を超えており、各地域の魅力を深層的に解釈する展示会等を通じて確実にファンを増やしています。

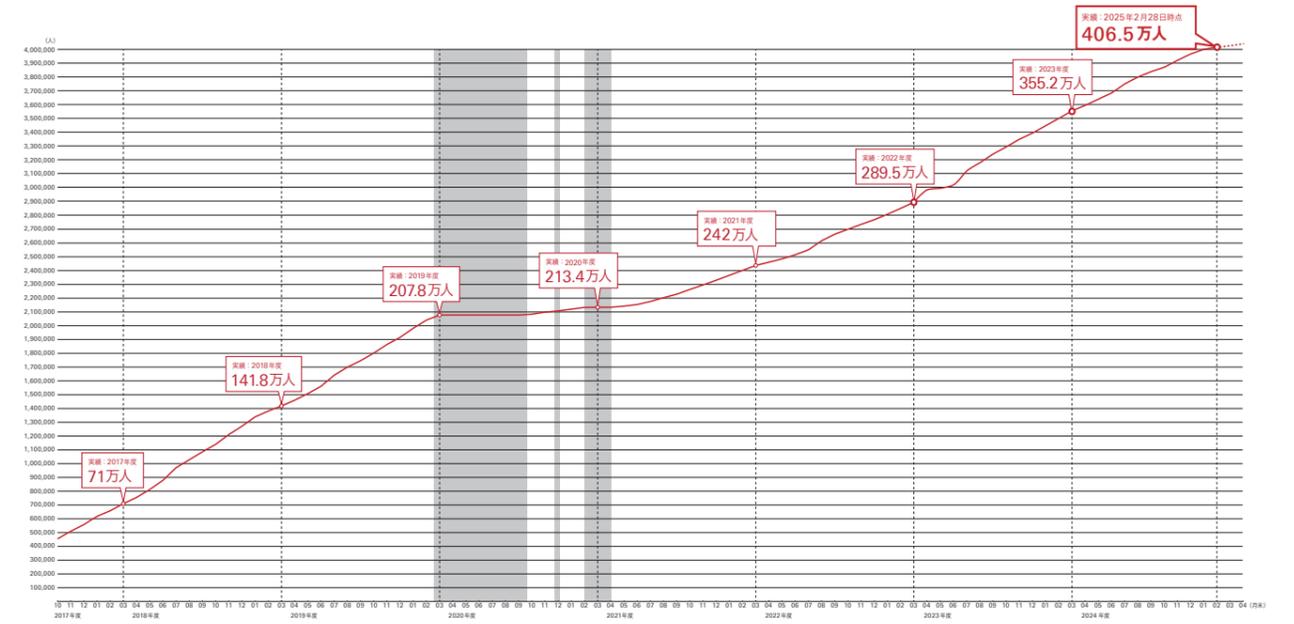
3つの拠点は同様に、展示ギャラリー、多目的ホール、ライブラリー、レストラン、ショップの機能を持ち、来館者が多面的に日本を感じることができるよう設計されています。展示ギャラリーでは様々な分野のクリエイターと連携して展示会を開催し、また、多目的ホールでは企業や各種団体のみならず、政府機関や自治体等と協力して多様なイベントを実施しています。

JAPAN HOUSEの大きな魅力の一つは、各拠点で3～4か月毎にテーマを変えて実施している企画展示です。対日理解の促進を目的とした発信施設として、日本のアートや工芸を単に紹介するのではなく、展示品の歴史的・文化的背景や経済・産業的な側面等も盛り込むなど工夫を凝らした説明を行っています。2024年度を振り返ると、日本で公募・選定した企画を3拠点に展開する「巡回企画展」として2企画（DESIGN MUSEUM JAPAN:日本のデザインを探る、木組分解してみました KIGUMI: Revealing the Carpentry Behind the Wood Joint）、また、各拠点で独自に企画する「現地企画展」として「JAPANESE PRINCIPLES: DESIGN AND RESOURCES」展（サンパウロ）、「Looks Delicious!: Exploring Japan's Food Replica Culture」展（ロンドン）、「Yes, KAWAII is Art-EXPRESS YOURSELF」展（ロサンゼルス）等、合計8企画を開催しました。また、2025年度以降は他の文化施設やギャラリーと連携し、JAPAN HOUSEで開催した展示を他の都市や国で展開する取組も予定されています。

JAPAN HOUSEでは、その強い訴求力を活かして、講演やセミナーの形で日本の政策・取組についても積極的に発信しており、企画と連動した発信も実施しています。各分野で活躍する方々に御登壇いただくことにより、対日理解を促進する重要な機会を提供しています。2024年度は、外交、安全保障、経済、環境・気候変動、AI含む科学技術・イノベーション、宇宙、高齢化社会、被災地復興支援、インバウンド促進等の幅広い分野を扱った企画を実施しており、大学関係者、政府関係者、企業関係者、シンクタンク等様々な方々に御登壇いただいています。

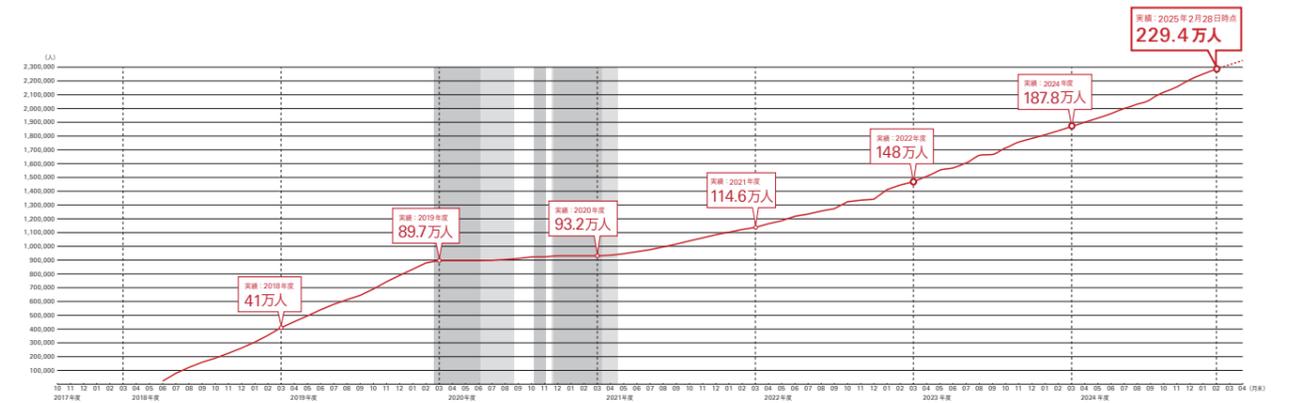
親日派・知日派の裾野を広げる装置として、また、ビジネス・インバウンドの機会創出や知的交流を生み出すプラットフォームとして、さらなる発展を目指すとともに、これまでの成果についても積極的に発信していきたいと考えています。

※ グラフは各月の末日の集計
※ 新型コロナウイルス感染症対策による休館期間
■ 全館休館 ■ 一部休館



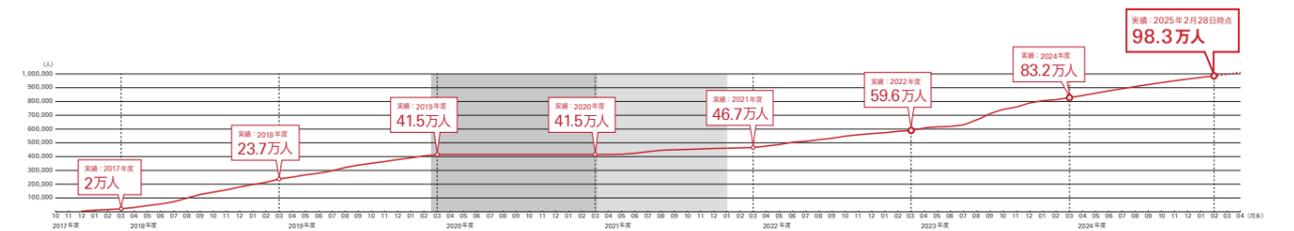
サンパウロ | 2017年4月開館

累計来館者数400万人を突破し、サンパウロ市内の主要な文化施設として定着。2024年度は、日本のファッションの変遷や「もったいない精神」に基づく日本の技術と文化を発信し、2名の写真家による日本の普遍的家族像につき写真展を実施。日伯外交関係樹立130周年を迎える2025年度は、ブラジルはじめ中南米において、より一層の発信強化を図る。



ロンドン | 2018年6月開館

2025年度には累計来館者数が220万人を突破。2024年度は「食品サンプル」をテーマに、その歴史や技術、文化的背景を紹介する展示会が老若男女を問わず幅広い層の関心を引き付け、大きな反響を呼んだ。また、現地の文化施設や日英各分野の専門家との協力企画のほか、日本の地方自治体との連携による地域の魅力発信イベントも多数実施。2025年度も引き続き、質の高い意欲的な企画の実現を目指していく。



ロサンゼルス | 2017年12月一部開館、2018年8月全館開館

2024年度には累計来館者数が約100万人に到達する勢い。2024年度は「King of KAWAII」として世界的知名度を持つ、増田セバスチャン氏がプロデュースする「Yes, KAWAII is Art-EXPRESS YOURSELF」によって、新しい世代への認知度を高め、またハリウッドという地域性を活かし、日本映画のグローバルな発信に協力する事業を盛んに行ってきた。2025年度も地方自治体や企業等と連携して、日本食や日本映画をはじめ様々な発信を実施していく。




JAPAN HOUSE
 ———
 SÃO PAULO




JAPAN HOUSE
 ———
 LONDON



サンパウロ

2017年4月に開館したジャパン・ハウス サンパウロでは、建築、技術、食、ファッション、芸術、観光など様々な日本の魅力をテーマに展示企画を展開してきています。また、展示内容に併せた教育プログラムの充実や日本の文学や漫画などの日本発コンテンツを題材にしたブック・クラブという独自の試みを定期的に開催しています。さらに、多言語発信やブラジル国内外での横展開（サンパウロ以外での展示）など、中南米全体への発信強化を図っています。

2024年度は、着物から洋服に大きく変貌し発展した日本ファッションの全体像を各時代を代表する日本人デザイナーの作品と共に紹介する「ジャパン・エフェクト：15のファッションエピソード」展、日本人の「もったいない精神」からインスピレーションを受け、無駄をなくし、資源を最大限活用しようとする日本の技術と文化を発信する「Japanese principles: design and resources」展、京都で開催された国際写真展「KYOTOGRAPHIE」で好評を博した日本人女性写真家2名が捉えた家族や日常生活についての写真展「Life that unfolds」展を開催しました。

また、日本の政策・取組の発信については、外交・安全保障、日伯関係、核軍縮・不拡散、ASEAN、環境・気候変動、超高齢化社会を迎える日本の健康づくりについての施策・取組など多岐にわたるテーマについて、現地のシンクタンクと連携したものも含め、積極的に講演・セミナー等を実施しています。

ロンドン

2018年6月の開館以来、ジャパン・ハウス ロンドンでは、日本の伝統的な職人技から最先端の技術まで、幅広いテーマを扱った企画展示を行っています。企画の実施にあたっては、展示品の紹介にとどまらず、その歴史や文化、社会的背景など多角的な側面にも触れ、より深い理解へとつながるよう工夫を凝らすことを特徴としています。

2024年度は、日々の暮らしに豊かさや活力を与える「デザイン」を通じて日本の新たな側面を探る巡回企画展「DESIGN MUSEUM JAPAN」展を開催しました。また、日本独自の文化として発展した「食品サンプル」をテーマに、技術や製造工程、日本の多様な食文化の歴史、文化的背景、未来に向けた取組までを包括的に紹介する現地企画展「Looks Delicious!」展を実施しました。日本食が浸透しつつあるロンドンでも、精緻に計算されたデフォルメがもたらす食品サンプルが新鮮な驚きと共に大きな関心を集めました。このほか、日本の地域や伝統文化遺産、技術、歴史的背景の発信にも積極的に取り組んでおり、JNTOとの協力事業「Spotlight on Local Japan」を通じて、大分、和歌山、富山、愛知、滋賀、東京などの地域の農業遺産や伝統工芸品など、多彩な魅力を紹介するイベントを実施しました。

また、日本の政策・取組の発信については、外交・安全保障、経済安全保障・機微技術分野での日英協力、国際緊急援助や被災地復興支援、AI、高齢化社会、インバウンド促進など多岐にわたるテーマを取り上げ、著名シンクタンクとの連携も含め、積極的に講演やセミナー等を実施しています。



JAPAN HOUSE
LOS ANGELES



ロサンゼルス

2018年8月に全館開館したジャパン・ハウス ロサンゼルスでは、エンターテインメント産業の中心地ハリウッドという地域性を活かし、日本の魅力を多角的に伝える事業を展開してきました。日本各地の伝統や文化、価値観に触れつつ、人々が共鳴共感し、自分のライフスタイルに日本を取り入れたいと思ってもらえるような発信を心がけています。

2024年度は、日本の新たな側面を探る巡回企画展「DESIGN MUSEUM JAPAN | Bridging Design and Life」展からスタートし、世界的知名度の高い増田セバスチャン氏のプロデュースする現地企画展「Yes, KAWAII is Art -EXPRESS YOURSELF-」を開催し、日本のKAWAII文化をその歴史から体験できる展示となりました。また、日本食に関するワークショップ・体験イベント等も実施しました。

さらに、日本の政策・取組の発信については、外交・安全保障、日米関係、女性・平和・安全保障（WPS）、日本の農林水産物・食品の輸出促進、科学技術・イノベーション、宇宙、インバウンド促進など多岐にわたるテーマについて、著名シンクタンクや大学と連携したものも含め、積極的に講演・セミナー等を実施しています。

巡回企画展と
各拠点での企画展



JAPAN HOUSEは、内容のしっかりとしたコンテンツを、常態的に受け入れる現地側の体制と、海外3拠点を情報発信拠点として活用しようとする日本側の能動性がかみ合うことでプロジェクトが形成されています。

3都市の拠点には、館長や局長がおり、現地では彼らが中心となり、施設運営の姿勢、開催する展覧会の吟味等において管理をしています。

ギャラリーで開催される展覧会は、日本での公募を経て選出された「巡回企画展」と各拠点で企画・制作された「現地企画展」があります。各都市の企画展は互いに利用し合い、生き生きとした情報発信力のある展覧会により日本と3拠点に脈動と連携が生み出されてきています。また、コロナ禍以降に定着したオンライン展示は、「参加できなかった」という声に応えるため、現在も引き続き行っています。いずれの展覧会も、ハイカルチャーからサブカルチャー、ハイテクノロジーにも正面から向き合います。

JAPAN HOUSE
São Paulo

名誉館長：ルーベンス・リクペロ
館長：カルロス・アウグスト・ローザ
企画担当局長：ナターシャ・バルザーギ・ジーネン
運営担当局長：クラウジオ・ハジメ・クリタ
経理担当局長：ヒカルド・フェハス

JAPAN HOUSE
London

館長：サム・ソーン
企画局長：サイモン・ライト
経営企画局長：キャロリン・バーネット
マーケティング&コミュニケーションズ局長：ハイディ伊佐
財務・コンプライアンス局長：ロジーナ・シングルトン

JAPAN HOUSE
Los Angeles

館長：海部優子
事務局長：佐々木 聡 (吉本興業)
総務局長：ヒロコ・ジョンソン
PR・マーケティング局長：中之内里沙
企画&事業開発チーフプロデューサー：スカイ・ホワイトヘッド
名誉顧問：ラリー・エリソン
アドバイザー：YOSHIKI

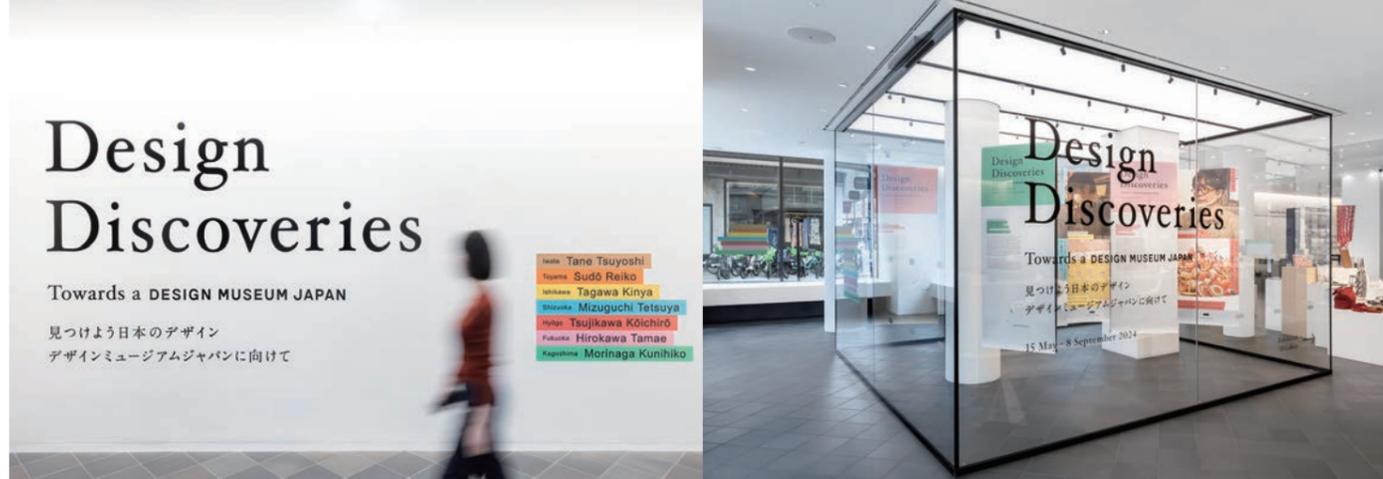
巡回企画展

DESIGN MUSEUM JAPAN:
日本のデザインを探る

企画者：
日本放送協会、
株式会社NHKプロモーション
株式会社NHKエデュケーショナル

縄文時代より1万年以上続く生活文化の中で、地域ごとに独自のデザインを育んできた日本。日々の暮らしに豊かさや活力を与えている「デザイン」に焦点を当て、日本の知られざる側面を探る。1万年前の暮らし方から、21世紀に生まれた楽器、そして、最先端のスポーツウェアまで、日本人が作ってきた様々なモノやコトを世界の一線で活躍するクリエイターたちがリサーチ。「デザイン」というフィルターを通すと見えてくる輝きを特別なBOXに詰め込んで紹介。

巡回スケジュール	巡回地	来場者数
2023年3月28日—6月11日	サンパウロ	122,394人
2024年1月26日—4月14日	ロサンゼルス	32,038人
2024年5月15日—9月8日	ロンドン	125,496人



企画展関連イベント

イベント

建築家 田根 剛による
展覧会ツアー

2024年6月15日
出演：田根 剛
開催拠点：JAPAN HOUSE LONDON

本展覧会の舞台裏を、参加クリエイターの一人である建築家・田根 剛氏によるガイドツアーで紹介。田根氏は展示全体の創造的ビジョンを説明し、デザインとは何か、また1万年前の縄文時代に既にデザインが存在していたと考える自身の信念について語った。



イベント

「The Great Exhibition Road Festival」Family Fun Zone
での日本の玩具体験

2024年6月15日、16日
協力：Great Exhibition Road Festival、日本玩具博物館
開催拠点：JAPAN HOUSE LONDON

本展覧会に展示されているコマをはじめ、けん玉、だるまおとし、折り紙など、日本の子どもたちに愛されてきた郷土玩具を学び、遊ぶことができる体験型のブースをGreat Exhibition Road Festivalに出展した。



イベント

アーキオロジから
アーキテクチャーへ：
田根 剛によるトーク

2024年6月16日
出演：田根 剛
協力：London Festival of Architecture
開催拠点：JAPAN HOUSE LONDON

「London Festival of Architecture 2024」とのコラボとして、参加クリエイターの一人である建築家・田根剛氏によるトークイベントを実施。「未来の考古学」をテーマにした建築プロジェクトを手掛けている田根氏が、過去、現在、未来を調和させる建築の役割について語った。



イベント

須藤 玲子の
出張ギャラリーツアー

2024年8月19日
協力：V&A Dundee
出演：須藤 玲子、Kristy Hassard
開催拠点：JAPAN HOUSE LONDON

スコットランドのV&A Dundeeにて、参加クリエイターの一人であるテキスタイルデザイナーの須藤玲子氏が、展示の内容やデザイン・ファッション・サステナビリティにおける須藤氏の仕事の意義について理解を深めてもらうためのギャラリーツアーを実施した。



巡回企画展

木組 分解してみました

KIGUMI: Revealing the Carpentry Behind the Wood Joint

企画者:

竹中大工道具館

日本の木工文化が高度に発展を遂げてきた背景には、世代を超えて脈々と受け継がれてきた伝統と、日本人独特の自然に対する畏敬と敬虔の念、そしてその自然環境に培われてきた職人の技と心がある。本展では、日本の社寺建築を支えてきた「堂宮大工」と、茶室をはじめとする日本の伝統的建物を手がける「数寄屋大工」、そして世界に誇る日本の代表的な木造建築技術「木組」の三つの側面から日本の木工文化とは何かを探る。

巡回スケジュール	巡回地	来場者数
2024年11月20日—2025年1月22日	ロサンゼルス	26,581人
2025年3月12日—7月6日	ロンドン	集計中
2025年11月10日—2026年5月24日(予定)	サンパウロ	—



企画展関連イベント

オフサイトイベント

From Forest to Form
Japanese Carpentry at
Shōya House

2024年11月16日

出演: 阿保昭則 他

開催拠点: JAPAN HOUSE LOS ANGELES

Photo: ©The Huntington [The exterior of the Japanese Heritage Shōya House. The Huntington Library, Art Museum, and Botanical Gardens.]

巡回企画展「Masters of Carpentry: Melding Forest, Skill and Spirit」の公開前に、カリフォルニア州の教育研究機関「ハンティントン・ライブラリー」に移築された庄屋で実施されたワークショップ。本展示の展示設営の監修を行っている棟梁・阿保昭則氏による、寄木細工、木取り、組み立てといった日本の木工哲学が紹介され、ゲストは伝統的木工道具の扱い方を学び、鉋削り体験を楽しんだ。



イベント

VIP Preview & Reception

2024年11月19日

出演: 西山マルセーロ

開催拠点: JAPAN HOUSE LOS ANGELES

一般公開に先立って、巡回企画展「Masters of Carpentry: Melding Forest, Skill and Spirit」のVIPプレビューとレセプションを開催。竹中大工道具館の研究員である西山マルセーロ氏による展示会の解説付きツアー、さらにレセプションでは本展示と日本の大工文化を紹介する西山氏のプレゼンテーションが行われた。



ハイブリッドイベント

Curator Talk |
The Spirit of Japanese
Craftsmen and Nature

2024年11月20日

出演: 西山マルセーロ

開催拠点: JAPAN HOUSE LOS ANGELES

Photo: Takenaka Carpentry Tools Museum

数寄屋大工の仕組みや日本茶室の独特な建築的特徴に焦点を当て、木材や竹材といった素材の選択方法から、実行される機微な建築技術、さらには日本の建築物の完全性を維持するための大工道具の重要性について紹介された。プロ・アマを問わず、地元の大工や木工職人など様々な人々が集まり、西山氏のプレゼンと歓談を楽しんだ。



イベント

Tea Tuesdays | Omotesenke
Tea Ceremony Pop-Up

2024年12月3日、10日

協力: 表千家同門会南加支部

出演: 表千家同門会南加支部

開催拠点: JAPAN HOUSE LOS ANGELES

巡回企画展「Masters of Carpentry: Melding Forest, Skill and Spirit」の開催に合わせて、展示されている茶室「糞庵」の前で行われた茶道体験。16世紀に千利休によって設計された「糞庵」の歴史、建築様式、利用法について学びながら、ホリデーシーズンに茶菓子と抹茶を楽しむことができる体験となった。



JAPAN HOUSE SÃO PAULO 企画 2024年度

企画展

ジャパン・エフェクト：
15のファッション
エピソード

2024年5月7日—10月6日

来場者数：382,805人

協力：山口事務所、文化服装学院、山本寛斎事務所、
ANREALAGE

1950年代から2020年代まで一望できるファッション展。日本の衣文化が戦後、着物から洋服に大きく変貌を遂げ発展した様子が、各時代を代表する日本人デザイナーの作品と呼応し、日本ファッションの全体像が俯瞰できる内容。社会を映す鏡と形容されるファッションデザインの潮流を通して、時代を眺める日本の感性を紹介した。



企画展関連イベント

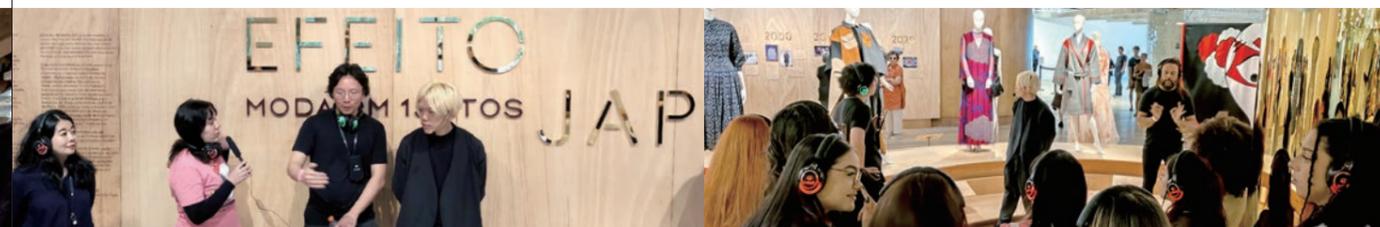
ハイブリッドイベント

日本のファッションの変遷

2024年5月7日

出演：山口壮大 | スタイリスト、ファッションディレクター

本講演では、スタイリスト、ファッションディレクターの山口壮大氏が日本におけるファッションを紹介し、コーディネーターとして手がけた『ジャパン・エフェクト：15のファッションエピソード』展について語った。



ハイブリッドイベント

山口壮大氏トークイベント

2024年5月8日

共催：サンタマルセリナ大学

出演：山口壮大 | スタイリスト、ファッションディレクター

本企画展コーディネーター山口壮大氏のトークイベント。トークイベント共催であるサンタマルセリナ大学でのイベント「ファッションの出会い」と同時期に開催され、山口氏が自身のファッション界でのキャリアについて語り、学生たちの質問に答えた。



ワークショップ

刺し子入門

2024年9月7日、21日

講師：ファビ・サキハラ

参加者は刺し子技法の起源と一般的な模様について学び、刺し子体験を楽しんだ。刺し子とは、江戸時代に着古した着物を繕うために生まれた日本の刺繍技法で、美しい縫い模様を形成する。天然資源を最大限に活用し、日本人の「もったいない」の意識を反映しており、現在でも手工芸品やファッションに用いられている。



ハイブリッドイベント

6つの行為による
ファッションとガストロノミー

2024年10月2日、3日

協力：The House of Suntory

出演：ヴァルター・ホドリゲス | デザイナー

ナターシャ・ゲーネン | JHSP文化ディレクター

白石テルマ | レストラン藍染シェフ、日本食普及親善大使

日本のファッションと料理に焦点を当てた今回の体験は、デザイナーのホドリゲス氏とJAPAN HOUSE SÃO PAULO文化ディレクターのゲーネン氏による両展示のガイドツアーと、白石シェフが考案したドリンクや料理の試食会で構成された。参加者は戦後のファッションとガストロノミーの対話を楽しんだ。



JAPAN HOUSE SÃO PAULO 企画 2024年度

企画展

Street Fashion

2024年6月25日—11月17日

来場者数：232,365人

協力：山口事務所、株式会社パルコ、
ACROSS編集部、FRUITS MAGAZINE

社会、文化、ライフスタイルの変化を反映すると言われる、日本のストリートファッションに焦点を当てた100点以上の写真展。会場では1950年代から2020年代にかけて、10年ごとのスパンで世界のトレンド、ファッション、映画、音楽を紹介すると共に、これらの文化、社会、政治、経済の変化を受けて生まれた日本のカウンターカルチャーとリアルなストリートファッションを展示した。



企画展

Life that unfolds

2024年11月19日—2025年4月3日

来場者数：集計中

協力：一般社団法人KYOTOGRAPHIE

京都で開催される国際的な写真展「KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭」で好評を得た二人の写真家が捉えた家族や日々の生活を、写真作品と当時の生活雑貨などの展示品とともに紹介する作品展と日伯識者によるオンラインセミナーを開催。世代の異なる二人の写真家が捉えた時代の変容を浮かび上がらせながら、そこに映し出された普遍性、共通性への共感を醸成。さらに、これからの家族、家庭の在り方をテーマに日伯交流の機会を創出する。



JAPAN HOUSE SÃO PAULO 企画 2024年度

企画展

Japanese principles:
design and resources

2024年12月3日—2025年5月4日

来場者数：集計中

協力：坂茂建築設計事務所/Cidade大学
外部団体：RADER 設計事務所（展示構成）

持続可能な社会の実現に向けてさまざまな意識改革や技術開発が行われている中で、人間が求める「快適さの追求」と「自然や他者の視点を持つという意識」に焦点を当て、自然に由来する天然資源をどう守って行くかを提起。日本の伝統的な生活様式や工芸の中に培われた資源・素材の無駄をなくし最大限活用する工夫や現代的な技術やデザインにより新しい価値を生み出す資源再生の取り組みを、日本の建築、インテリア、工芸、衣料、食など様々な分野を通して紹介する。



イベント

子供向けワークショップ
鯉のぼり作り体験

2024年5月5日

日本の「こどもの日」にちなみ、子どもの健やかな成長を願って鯉のぼりを掲げるという江戸時代から続く風習を紹介。本ワークショップでは、布で作る鯉のぼりのカスタマイズや、和布を使った飾り作り体験を提供した。他にもJAPAN HOUSE SÃO PAULO 教育チームは、企画展の内容を子供達に分かりやすく伝えることで日本を身近に感じてもらう活動を定期的に行っている。



イベント

Paulista Cultural
仮面のマニフェスト
—隠すこと、表すこと

2024年12月8日

共催：MASP, Paulista Cultural

パウリスタ文化グループと文化回廊としてのパウリスタ通りのイメージを強化することを目的に、人々がパウリスタ通りに設置されている7つの文化施設を訪問することを奨励するイベントの一つ。「パウリスタ文化パスポート」購入者は、該当するすべての文化施設の受付でパスポートにスタンプを押してもらえる。



イベント

Paulista Cultural
長崎県の竜踊り体験

2024年12月8日

共催：MASP, Paulista Cultural

ブラジル長崎県人会による蛇踊りグループによるプレゼンテーションと、ドラゴンダンス体験を開催。また、コラージュとステンシルを使ったポスター制作ワークショップも実施。



JAPAN HOUSE SÃO PAULO 企画 2024年度

** オンラインにて配信中

長寿ウォーク

2024年11月20日—24日

協力：Bradesco Seguros, Yamaha Motor do Brasil
 後援：Yakult, Ajinomoto do Brasil,
 Rohto-Mentholatum do Brasil, FUJIFILM do Brasil,
 Daiichi Sankyo Brasil

高齢者の割合が世界で最も高い国*となった日本の背景として、生活習慣があるのではないかと着目し、インスピレーションを得た「長寿ウォーク」プロジェクト。心身の健康に関するテーマを身近に感じてもらうことを目的に、ブラジルと日本の両国から健康、スポーツ、老年学の専門家を招き、栄養、瞑想、メンタルヘルス、運動、ボディケア、そして人間と自然の関係性などをテーマに取り扱う。単なる「長寿大国のひとつである日本」だけではなく「健康寿命」に着目して紹介、体験する機会を提供し、ウェルビーイングに関連する活動や講演に特化したプログラム。*総務省統計局資料より



セミナー

子どもと青少年の健康に関する成果促進

子どもと青少年のウェルビーイングのためのデジタル革新とセクターを超えたパートナーシップ

2024年5月28日

主催：ユニセフ・ブラジル事務所、
在ブラジル日本国大使館

パネリスト

フランシスコ・ハビエル・マルトス・モタ | ユニセフ・ブラジル事務所
資金調達部長

宮崎明博 | JICAブラジル事務所長
クリスチアーノ・ブラネス | NECラテンアメリカ新規ビジネス担当部長
ジョセ・マヌエル | 武田薬品ブラジル社長 等



冒頭、林禎二駐ブラジル大使から、日本とユニセフの歴史的な関係や、官民連携での取組の重要性について説明。パネルディスカッションでは、日本企業関係者から、ユニセフとの連携成果を発表し、また、国際協力機構（JICA）関係者からは、官民連携の文脈で海外投融資事業について説明しました。

ハイブリッド講演 **

東アジアにおける核リスク削減 日本の核軍縮・軍備管理の取組

2024年10月10日

共催：在サンパウロ日本国総領事館

講師

秋山信将 | 一橋大学教授

モデレーター

グンテル・ルジット | ESPM大学教授



不安定さを増す東アジアにおける核リスクとその削減に向けた日本の取組、さらには地域の安定のための国際協力の重要性について理解を深めることを目的に講演会を実施。秋山教授から、東アジアの地域安全保障に関する日本の見方、世界の安全保障環境、ウクライナ戦争に関する日本の見方、日本の核ジレンマ、G7広島サミットの成果などについて説明しました。

オンラインセミナー **

アジアにおける日本の戦略的立ち位置

地政学的分断と地域安全保障のダイナミクス

2025年1月23日

共催：ブラジル国際関係センター(CEBRI)、
在リオデジャネイロ日本国総領事館

パネリスト

神保 謙 | 慶徳大学教授

マルコス・カラムル | CEBRI国際委員会顧問

モデレーター

マリアナ・アルブケルケ | CEBRI上席研究員、
リオデジャネイロ連邦大学 (UFRJ) 教授



日本は、アジア地域における分断化と複雑な安全保障力学が強まる中で、地政学的に重要な役割を果たしてきました。その日本の役割や見解について理解を深めるセミナーを実施。神保教授から、インド太平洋の地政学的状況や、「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」を含む日本の安全保障戦略について説明しました。

JAPAN HOUSE LONDON 企画 2024年度

企画展

Looks Delicious!
Exploring Japan's
food replica culture

2024年10月2日—2025年2月16日
来場者数：209,059人
協力：いわさきグループ

日本独自の文化として発展した「食品サンプル」をテーマに、技術や製造工程、日本の食文化の歴史や文化的背景、未来に向けた取組までを包括的に紹介する企画。いわさきグループが制作した、全国47都道府県を代表する食の展示では、各地の郷土料理や特産品、ご当地グルメの食品サンプルが一挙公開されたほか、製作に用いる素材や道具、技術、製作工程など製作の裏側にも焦点が当てられた。



企画展関連イベント

ワークショップ

抹茶パフェの食品サンプルをつくってみよう

2024年10月4日、5日

出演：岩崎 毅、佐藤香央里
協力：イワサキ・ピーアイ

イワサキ・ピーアイの代表取締役社長 岩崎 毅氏が食品サンプルの歴史を紹介。また、元祖食品サンプル屋の佐藤香央里氏を講師に迎えて、食品サンプル作りを体験できるワークショップを行った。



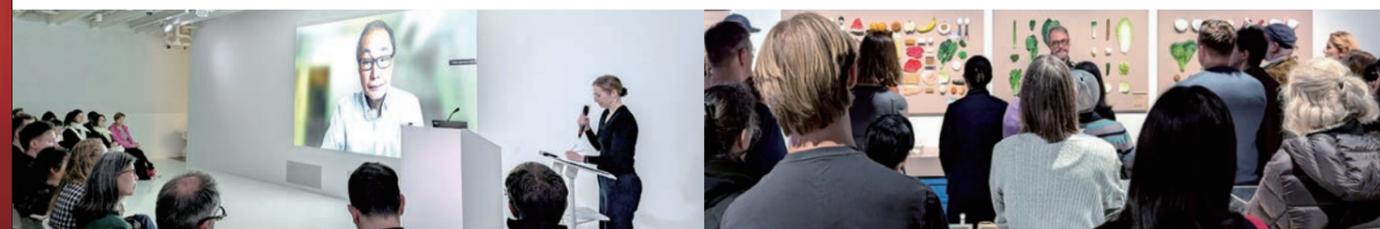
シンポジウム

日本文化における複製、レプリカ、そして表象

2024年10月19日

出演：Dr Fabio Gygi、野瀬泰申、松葉涼子、
Dr Rupert Cox、Dr Phil Swift
協力：ロンドン大学東洋アフリカ研究学院 (SOAS)

日英両国の専門家を招き、食品サンプルを通じてオリジナルとコピー、偽物と本物の関係性を探るシンポジウムを実施。食品サンプルが日本の多様な食文化に深く根付いている今、それが私たちの生活や消費、そして身の回りの世界の理解にどのような影響を与えるのかについて考察した。



JAPAN HOUSE LONDON 企画 2024年度

Spotlight on Local Japan

日本政府観光局 (JNTO) の広報協力のもと、工芸やデザイン、ものづくり、食文化、イノベーション、テクノロジー等を通じてより深い日本各地の魅力を伝えるプロジェクト。

ハイブリッドイベント **

国東半島宇佐の
伝統が織りなす農業文化

2024年7月25—27日

共催：大分県
出演：林 浩昭 | 国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会会長
岩切千佳 | 七島蘭工芸作家

2013年に世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域の農耕文化と多様な生態系にスポットライトを当て、林氏による量の原料である「くにさき七島蘭」や「原木しいたけ栽培」などの農耕文化遺産についての講演会、岩切氏による「七島蘭」を使った円座やぞうり作りのデモンストレーション、そしてしめ縄作りの体験型ワークショップを実施。イベントの前後には、大分県の担当者が紹介ビデオ上映や観光パンフレット配布などを通じて大分県の紹介を行い、県全体を広く周知した。



ハイブリッドイベント

和歌山が誇る梅の伝統：
梅酒と梅干

2024年10月12日、13日

共催：和歌山県
出演：生田富哉 | 株式会社梅樹園 代表取締役社長
吉田朋広 | 中野BC株式会社

梅を通して和歌山県の歴史、風土、自然を紹介しつつ、400年以上前から続く画期的な農法と、梅産業から広がる文化・景観が評価され、世界農業遺産に認定された「みなべ・田辺地域」にもスポットライトを当てた。講演後には梅酒の試飲や梅干しの試食会を実施し、またワークショップでは和歌山の梅を使用した梅酒作りを体験できる場を設けた。イベントの前後には、和歌山県の担当者が紹介ビデオ上映や観光パンフレット配布を行った。



ハイブリッドイベント **

富山の輝き：
高岡漆器と螺鈿の世界

2024年11月6日

共催：富山県
出演：武蔵川剛嗣 | 螺鈿師

国指定の伝統的工芸品である高岡漆器と螺鈿にフォーカスを当てたイベントを実施。武蔵川氏による、高岡漆器についての講演会、螺鈿細工の実演を行った。また、同氏による実演形式のワークショップでは、参加者は自分だけの螺鈿細工を施した箸を製作した。イベントの前後には、紹介ビデオ上映や観光パンフレット配布などを通じて富山県の紹介を行った。



** オンラインにて配信中

Spotlight on Local Japanで
紹介をした地域



ハイブリッドイベント **

布団の歴史と技術：
丹羽ふとん店

2024年11月14—17日

共催：丹羽ふとん
協力：otherProjections
出演：丹羽拓也 | 丹羽ふとん店五代目

愛知県名古屋市に店を構える丹羽ふとん店とのコラボレーションイベントを実施。布団職人・丹羽氏による、日本における布団の文化的背景、歴史、現在の使用法を紹介する講演会や、同氏による布団作りのデモンストレーションを実施。また、ワークショップでは愛知県の尾州産の生地を使用した座布団製作を体験できる機会を提供。さらに、丹羽氏が1日かけて布団作りの工程を最初から最後まで実演するデモンストレーションイベントも実施した。



ハイブリッドイベント

大津祭りの日

2024年11月29日、30日

共催：滋賀県、公益社団法人びわこビジネズビューロー
出演：船橋寛明 | 大津祭曳山連盟 理事長、月宮殿山

滋賀県大津市の曳山祭で重要無形民俗文化財にも指定されている「大津祭」を取り上げた。JAPAN HOUSE LONDONの入口を提灯で飾り、本祭の前日に行われる「宵宮」を再現。大津祭の伝統と歴史を紹介するトークショーやワークショップなどのイベントを通じて、来場者向けにお祭りの賑やかで楽しい雰囲気演出。さらに、ジャパン・ソサエティと連携し、North Kensington地区の学校で子どもたちを対象にお雛子のミニパフォーマンスや楽器の鉦をたたく体験ができるワークショップも実施。



ハイブリッドイベント **

東京に灯りをともし：
江戸の手描き提灯

2024年12月3日、4日

共催：公益財団法人東京観光財団
出演：村田健一郎 | 泪橋大嶋屋提灯店

東京観光財団とのコラボレーションイベントとして東京のあまり知られていない側面である、工芸や伝統の街としての東京を取り上げた。イベントでは100年以上にわたり東京の伝統工芸品42品目の一つである「江戸手描き提灯」を作り続けている老舗提灯店・泪橋大嶋屋の村田氏を迎え、江戸の職人技や伝統を実演を交えて解説・紹介。実際に江戸提灯作りを体験できるワークショップも実施。また、東京観光財団の担当者による、定番観光ルート以外の観光スポットの紹介も行った。



JAPAN HOUSE LONDON 企画 2024年度

** オンラインにて配信中

トークイベント

デザイナー、金属細工師
キャスリーン・ライリーとの対話

2024年9月14日

協力：London Design Festival
出演：キャスリーン・ライリー | デザイナー、金属細工師

ライリー氏は2018年にJAPAN HOUSE LONDONで開催された「Biology of Metal 金属の進化と分化」展に触発され、実際に燕三条で修行し、バターナイフ「Oku」を開発。英国のデザイン大賞も受賞した「Oku」を紹介する展示がLondon Design Festivalにて開催されることを受け、本コラボレーションイベントを実施した。



ハイブリッドイベント **

「ゴジラ」70周年記念
イベントシリーズ

2024年9月-12月

協力：東宝株式会社、山田兼司 | 映画プロデューサー

ゴジラ生誕70周年を記念して、日本の大衆文化の象徴であるゴジラを扱った一連のイベントを開催。地上階には昭和時代の映画に登場したゴジラ姿を再現した高さ2mのゴジラ像が設置され、来場者を楽しませた。また、厳選したゴジラの名作4作品の上映会や映画ポスターの掲示、ゴジラ映画の最新作「ゴジラ-1.0」の上映、作品のプロデューサーを迎えた特別オンライントークイベントを実施した。



トークイベント

輪島塗の未来：
存続と復興

2024年11月2日

協力：Asian Art in London
出演：山田雅美 | ヴィクトリア&アルバート博物館 学芸員、Simon Pilling | Asian Art in London ディレクター、鎌田克慈 | 塗師、若宮隆志 | 漆芸家、芝山佳範 | 沈金師、室瀬智彌 | 漆芸家

能登半島地震や豪雨で被害を受けた伝統産業、輪島塗の現状について、ヴィクトリア&アルバート博物館の山田学芸員が講演を行った。そして、日本から塗師や漆芸家4名がオンラインで参加し、石川県が復興支援を行う中、職人自身が輪島塗存続のために自助努力する意思・取組等について発信。日本の防災・災害復興へのレジリエンス、伝統工芸存続への努力について紹介した。



ハイブリッドイベント **

国境を越えた災害復興：
日本と英国の消防士が語る
東日本大震災

2024年9月17日

協力：Atlantic Pacific International Rescue

パネリスト
千葉善博 | 岩手県大船渡消防署消防司令補・救急救命士
シヨーン・ムーア | 元英国国際捜索救助チーム ナショナル・コーディネーター



東日本大震災で壊滅的被害を受けた岩手県大船渡市で、当時、救助活動に携わった日英の消防士が実体験を語り、その教訓と、災害への備えを強化するための協力的取組を振り返りながら、国際的な災害復興協力の課題等について議論。千葉氏は、現在も続く課題（復興、地域の少子高齢化、防災を踏まえた街づくり）について、また、ムーア氏は、言語を含むコミュニケーションの困難さ、ロジスティックスの複雑さ、受入国からのサポートの重要性等について述べました。

セミナー **

日本の経済安全保障及び
機微技術政策
英国及びEUとの戦略的協力

2025年1月28日

共催：国際問題戦略研究所 (IISS)

パネリスト
佐橋 亮 | 東京大学准教授
アレクサンドラ・サカキ | 独国際安全保障問題研究所アジア研究グループ副長
フランチェスカ・ギレットティ | 米ランド研究所ヨーロッパリサーチ・リーダー
モデレーター
ロバート・ウォード | IISS日本部長兼地経学・戦略担当ディレクター



近年、地政学的及び地経学的不確実性の高まりに伴い、経済安全保障の重要性が増しており、日本はこの分野における議論を主導してきました。なかでも、民生技術でありながら軍事装備への転用が可能な「機微技術」に関する政策は重要です。日本の経済安全保障と機微技術政策、そして英国及びEUとの戦略的協力について議論しました。

セミナー **

インド太平洋地域の
激動の時代を
日本はどう乗り切るか？

2025年2月11日

共催：王立国際問題研究所 (チャタムハウス)

パネリスト
兼原信克 | 同志社大学教授
鶴岡路人 | 慶應義塾大学准教授
クリスティ・ゴヴェラ | オックスフォード大学准教授



米国でトランプ政権が復帰し、世界の地勢図が大きく変化するなか、日本は隣国との関係をどう維持し、また、ASEAN、オーストラリア、インドなどのインド太平洋地域のパートナーとの関係を地域の安定のためにどう活用できるか？ さらに、英国を含む欧州のパートナーと、増え続ける共通の課題に対処しつつ、経済及び安全保障面での協力を深めるために日本は何ができるかということについて議論しました。

JAPAN HOUSE LOS ANGELES 企画 2024年度

企画展

Yes, KAWAII is Art
—EXPRESS
YOURSELF—

2024年5月2日—11月3日

来場者数：103,681人

協力：Sebastian Masuda Studio, Six Percent Inc.,
ASOBISYSTEM Co., Ltd

「カワイイ」文化の生みの親である増田セバスチャン氏プロデュースの現地企画展。一過性のブームではないカワイイ現象の文化的意義、さらに戦後のメディアや少女漫画から、1990年代に東京・原宿から世界的な現象へと拡大した変遷、その影響力と多面的な性質に焦点を当てることで、日本発祥の「カワイイ」文化がいかに奥深く永続的な文化現象であるかということが紹介された。



企画展関連イベント

** オンラインにて配信中

特別ポップアップイベント

Harajuku Day in Hollywood

2024年5月4日

共催・協力：Harajuku Day in Hollywood

出演：増田セバスチャン

Photo：©Courtesy of Harajuku Day LA

現地企画展「Yes, KAWAII is Art -EXPRESS YOURSELF-」の開催を記念し、1回限りのスペシャルポップアップ「Harajuku Day LA」を開催。ロサンゼルス約30に及ぶローカルショップが出演し、「KAWAII」服やアクセサリー等が並べられた。また「KAWAII」の世界観であり、今回の展示のテーマである、年齢、人種、セクシュアリティ、国籍、肌の色、性別に影響されない多様性と創造性に富んだファッションショーも行われた。



イベント

“King of Kawaii” Sebastian Masuda
Talk and Q&A @ AnimeExpo

2024年7月5日

協力：Anime Expo 2024、JETRO

出演：増田セバスチャン、Michelle Nguyen Bradley

JHLAは、北米最大のアニメ・コンベンションである「Anime Expo 2024」会場内でJETROが主催する「Geek Street」に出展。増田セバスチャン氏デザインのオリジナルフォトブースを設置し、ゲストが撮影した写真をすぐに現像できるプリンターも準備。司会のMichelle Nguyen Bradley氏とのディスカッションでは、原宿の歴史や西海岸を中心としたカワイイ文化の世界的な広がりが紹介され、ゲストからも活発に質問が寄せられた。



イベント

Exclusive Curator Tour
with Sebastian Masuda

2024年7月6日

出演：増田セバスチャン

増田セバスチャン氏による特別キュレーターツアー。前日に開催された「Anime Expo 2024」でのイベントをきっかけに来場したゲストらに向け、増田氏の芸術的ビジョンとカワイイムーブメントへの理解を深める60分間のツアーを実施した。さらにゲストは個人的な体験談を増田氏と共有し、またディスカッションを通じて、増田氏の作品について包括的な理解を深めた。



ウェビナー **

Power of Color | Exploring Colors
with Sebastian Masuda

2024年9月24日

出演：増田セバスチャン、Prof. James Meraz

増田セバスチャン氏とArtCenter College of DesignのJames Meraz教授による「色彩」をテーマにしたウェビナー。増田氏は幼少期の経験と鮮やかな色彩が自身の芸術表現に与えた影響を語った。また「侘び寂び」や「ハレとケ」といった日本の伝統的概念が戦後の日本で花開き、原宿のファッションシーンを通じて世界的な広がりを見せたカワイイ文化と関連していること等が紹介された。



JAPAN HOUSE LOS ANGELES 企画 2024年度

Movie & Bites

米国での日本食への興味関心の高さを鑑み、映画普及だけではなく、「日本食+日本映画」をテーマに日本文化を紹介するイベントシリーズ。映画作品で触れられる、日本文化に欠かせない自然や動物、食に対する日本人の親しみや感謝の気持ちを紹介し、またその映画に登場する料理の試食を提供するとともに、各料理の専門家による実演や解説を行い、一般的な家庭の食卓で日常的に食べられている日本食への理解を深めることを目的としている。

イベント

Movie & Bites シリーズ1
『The Island of Cats』
(邦題：ねことじいちゃん)

2024年4月23日

協力：UKA

出演：満江善隆 | シェフ (UKA)

第1回目は、岩合光昭監督の映画「ねことじいちゃん」を上映。この作品では、人気の観光地である猫島の春を舞台に、ちらし寿司や玉子焼きといった日本の人気料理が登場する。上映後、UKAの満江シェフによるちらし寿司と玉子焼きの調理実演と試食、さらにメロンクリームソーダも提供された。



イベント

Movie & Bites シリーズ2
『Our Little Sister』
(邦題：海街ダイアリー)

2024年8月3日

共催・協力：S&Bフーズ

出演：高橋洋也 | 「チャンピオンズカレー」総料理長

シリーズ第2回目は、是枝裕和監督の映画「海街ダイアリー」を上映。映画に登場するカレーライスが日本の食文化としてどのように適応し融合してきたかを紹介。上映後には、ロス市内に開店した「Champion's Curry Little Tokyo」の高橋陽也シェフが日本のチキンカレーの作り方を実演し、S&Bフーズは参加者へのお土産としてカレーラーを提供した。



イベント

Movie & Bites シリーズ3
『School Lunch of Ashiya City』
(邦題：あしやのきゅうしょく)

2024年12月14日

協力：在ロサンゼルス日本総領事館

Special Thanks: Yakult USA, Q&B Foods, Inc.

出演：曾根麻未、八木久仁子 | シェフ

ロサンゼルス市内の教育関係者、政府関係者や専門家に向け、日本の学校給食の文化が描かれた映画を紹介。曾根麻未氏による日本の学校給食の歴史についてのプレゼンテーション、八木久仁子シェフによる給食メニューの実演が行われ、豆腐やこんにゃくなどのユニークな食材の栄養面や文化的な意義について説明された。



イベント

World of Benshi Lecture
and Demonstration

2024年4月18日

共催：国際交流基金 ロサンゼルス事務所、

The Yanai Initiative at UCLA

協力：在ロサンゼルス日本総領事館

出演：柴田光太郎、神谷真紀子、白井文人、片岡一郎

通訳：Michael Emmerich

3名の研究者によって、弁士の世界と日本の無声映画の歴史と魅力が語られた。神谷氏による日本映画における「モダンティ」、白井氏は太平洋を越えた無声映画音楽について、柴田氏は無声映画伴奏譜「ヒラノ・コレクション」について紹介。世界ツアーに参加する弁士の第一人者、片岡一郎氏による実演で会は締めくくられた。



ワークショップ

Furoshiki Wrapping :
Living a Sustainable
Lifestyle

2024年6月15日、9月14日、12月7日

出演：Kumi Corsa

風呂敷の実用的な包み方や結び方など、日常生活に役立つ風呂敷の技術を共有し、風呂敷を日常生活に取り入れる手法を学べるワークショップ。体験セッションやインタラクティブな学習を通して、風呂敷テクニックを学ぶだけでなく、ゲストは風呂敷を使うことで、再利用性や持続可能性についても学んだ。



ワークショップ

Gallery Activation
Uchiwa

2024年7月下旬～8月中

2024年夏に開催中であった現地企画「KAWAII」展にちなんでうちわを配布し、展覧会のテーマである「EXPRESS YOURSELF (自分らしさを表現する)」をテーマに、自分の色、スタイル、テイストでうちわをデコレーションしてもらったワークショップ。日本の暑い夏と、KAWAII文化の一面である「デコラ」文化を学び、日本での、涼をとる方法としてのうちわの使用について学んだ。



** オンラインにて配信中

JAPAN HOUSE LOS ANGELES 企画 2024年度

イベント

BLEACH

Fireside Chat

with Ichigo & Uryu

2024年10月13日

共催：Viz Media

出演：森田まさかず | 黒崎一護役、杉山紀彰 | 石田雨竜役

Photo：©Courtesy of Anime News Network / Kalai Chi

アニメシリーズ『BLEACH』で主役を演じた日本人声優とのディスカッションを通して、日本のアニメ声優の技術、文化的・歴史的背景、日米の声優の文化の違いを紹介するパネルディスカッション。伝統芸能を含む日本独自の歴史的・文化的背景にも触れ、それが声優のスタイルの発展に影響を与えていることなどが紹介された。



イベント

The Colors Within

Live Talk & Drawing with

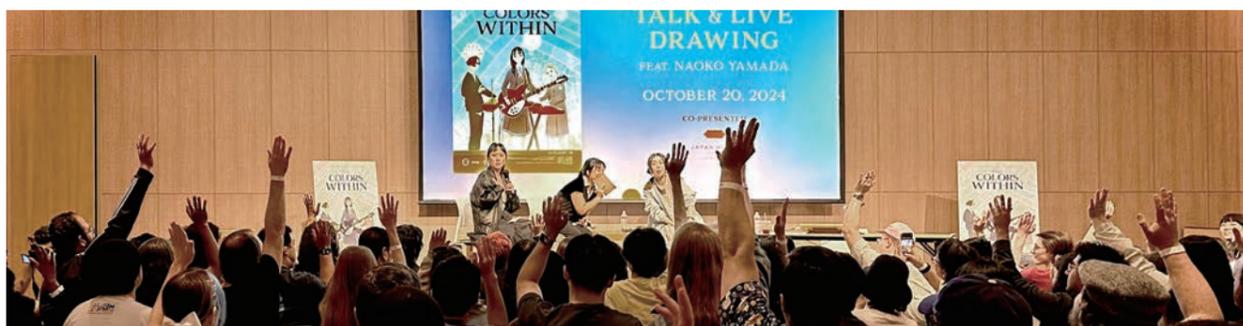
Naoko Yamada

2024年10月18日—20日

共催：Animation is Film Festival

出演：山田尚子

JAPAN HOUSE LOS ANGELESは例年「Animation is Film Festival」のコミュニティパートナーとして本映画祭で上映される日本作品の宣伝支援を行っているが、2024年は日本アニメーション界新進気鋭の女性監督として知られる山田尚子監督の映画『The Colors Within』（『きみの色』）の特別上映会と山田尚子監督本人によるトークイベントとオフレコ実演等を行った。



ワークショップ

Miso Soup Bomb

(Instant Miso Soup) Making

Workshop by MISOMARU

2024年12月8日

主催：WAZA

出演：谷川紀代美

ニューヨーク州・ブルックリンを拠点とする味噌玉会社「BROOKLYN MISOMARU」の創設者である谷川紀代美氏を講師に迎え、ゲストは日本の味噌文化と味噌汁の伝統的な調理風に工夫を凝らした味噌玉のつくり方、そしてそれぞれの「miso soup bombs」作りを体験した。



セミナー

EXPLORE JAPAN:

A window into

location production

2024年8月16日

共催：在ロサンゼルス日本国総領事館、JETROロサンゼルス

パネリスト

ジェイ・ロエベ | HBO / MAXグローバルインセンティブ&制作部門本部長

アレグラ・クレッグ | パラマウント・ピクチャーズ制作部門共同責任者

ジョー・マロック | サーチライト・ピクチャーズ制作部門部長



冒頭、曾根健孝在ロサンゼルス総領事による日本政府の訪日ロケ補助金制度の概要説明の後、訪日ロケを行った『Tokyo Vice』（HBO/MAX）、『スネーク・アイズ/G.I.ジョー オリジナル』（パラマウント・ピクチャーズ）、『レンタルファミリー』（サーチライト・ピクチャーズ）の関係者によるパネルディスカッションにおいて、同制度や日本でのロケに関する良い点や課題について議論しました。

セミナー **

共に探求する：

日米宇宙協力シンポジウム

2025年1月24日

主催：カリフォルニア工科大学ケック宇宙研究所、

在ロサンゼルス日本国総領事館

協力：NASAジェット推進研究所

基調講演

山崎直子 | 元宇宙飛行士

パネリスト

リカルド・ウッドバリー | ispace社米国副社長

梶原祐介 | トヨタ社月面探査車開発プロジェクトマネージャー

白井寛裕 | JAXA宇宙科学研究所教授

小野雅裕 | JPL研究員 等



宇宙科学と探査における日米両国の取組を紹介し、今後の協力関係の展望について議論するシンポジウム。冒頭、アルテミス計画を含む二国間協力に関する紹介に続き、基調講演では、山崎・元宇宙飛行士から、自身の経験や日本の宇宙教育について説明。パネルディスカッションでは、日米の第一人者らが、次世代の宇宙開発を形作る画期的なミッションや進化するテクノロジーについて議論し、また、日米の宇宙機関、民間企業、研究機関が協力することの価値や重要性が強調されました。

セミナー **

日米同盟シリーズ：

新体制下の日米同盟

2025年3月10日

共催：ランド研究所

パネリスト 第1部

片田さおり | 南カリフォルニア大学 (USC) 教授

ダニエル・エーグル | ランド研究所 経済安全保障イニシアティブ・ディレクター

ミレヤ・ソリス | ブルッキングス研究所東アジア政策研究センター (CEAP) 所長

基調講演

リック・ラップ | 元在日米軍司令官

パネリスト 第2部

森 聡 | 慶應義塾大学教授

寺岡亜由美 | コロンビア大学博士研究員

ザック・クーパー | アメリカン・エンタープライズ公共政策研究所 (AEI) シニアフェロー



2024年秋にドナルド・トランプ氏と石破 茂氏が選出され、新たな指導者を得た日本と米国。この指導者の交代が、今後数年にわたって日米同盟にどのような影響を及ぼす可能性があるのか、日米両国の専門家が、日米両国の視点を探り、ワシントンと東京が直面する安全保障と経済関係の課題について議論しました。



JAPAN HOUSE

JAPAN HOUSE SÃO PAULO

Av. Paulista, 52 - Bela Vista,
São Paulo - SP, 01310-000, BRASIL
<https://www.japanhousesp.com.br/ja/>

JAPAN HOUSE LONDON

101-111 Kensington High Street,
Kensington, London W8 5SA, UK
<https://www.japanhouselondon.uk/>

JAPAN HOUSE LOS ANGELES

Ovation Hollywood 6801 Hollywood Blvd.
Level 2 and 5 Los Angeles, CA 90028, USA
<https://www.japanhousela.com/>

ジャパン・ハウス東京事務局（外務省戦略的対外発信拠点室）

クリエイティブ・アドバイザー 原研哉

サンパウロ——株式会社 JTB

株式会社 電通（～2024年3月）

ロンドン——Japan H. L. Limited

ジョーンズ ラング ラサール株式会社（～2019年6月）

ロサンゼルス——吉本興業株式会社

株式会社 電通ライブ（～2024年3月）

株式会社 ESP（～2019年6月）

www.japanhouse.jp